

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 7 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K12556

研究課題名(和文) ツーリズム・レクリエーション利用者による支払いのあり方についての研究

研究課題名(英文) Research on payment system by tourism/recreation visitors

研究代表者

柴田 晋吾 (SHIBATA, Shingo)

上智大学・地球環境学研究科・教授

研究者番号：60726066

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、受益者負担による持続可能なレクリエーション・ツーリズムの推進の観点から、レクリエーション利用者等からの支払いを得る手段としての「生態系サービスへの支払い(PES)」型の「訪問者贈与スキーム」(以下、PES型VGSと称する)などのレクリエーション利用者による支払いの可能性についての実証的な検討を行った。具体的には、イギリスのコッツウォルズ保全委員会(CCB)によるPES型VGSの取り組みやイタリア・ボルゴバルディターロにおけるキノコ採取チケットシステムなどについての知見を得るとともに、新潟県湯沢町において日本で初めてとなるPES型VGSのスキームを構築をし、社会実験を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

環境価値を保全・実現するための政策手法としての「生態系サービスへの支払い(PES)」の取り組みが世界的に推進されているが、その多くは制御的regulatory生態系サービスに関するもので、景観美やレクリエーション価値などの文化的な生態系サービスについての取り組みは多くないのが現状である。本研究によって、この面での突破口となる可能性があるPES型VGSなどのレクリエーション利用者による支払いについての知見を明らかにするとともに、日本で初めてとなるPES型VGSスキームを構築するとともに、社会実験の取り組みを行った。

研究成果の概要(英文)：In this study, from the viewpoint of promoting sustainable recreation tourism at the expense of beneficiaries, the "Payment for Ecosystem Services (PES)" type as a means of obtaining payment from recreation users, etc. An empirical study was conducted on the possibility of payment by recreational users such as the "Visitor Giving Scheme" (hereinafter referred to as "PES-type VGS"). Specifically, knowledge about the PES-type VGS efforts by the Cotswolds Conservation Board (CCB) in the United Kingdom and the mushroom collection ticket system in Borgo Barditaro, Italy was obtained. Also, in Yuzawa Town, Niigata Prefecture in Japan, we constructed the first PES-type VGS scheme and conducted a social experiment.

研究分野：環境政策 自然資源管理

キーワード：PES型VGS ツーリズム・レクリエーション利用者による支払い 湯沢町自然環境保全基金

## 1. 研究開始当初の背景

環境価値を保全・実現するための政策手法としての「生態系サービスへの支払い (PES)」の取り組みが世界的に推進されているが、その多くは制御的 regulatory 生態系サービスに関するもので、景観美やレクリエーション価値などの文化的な生態系サービスについての取り組みは多くないのが現状である。この面での突破口となる可能性がある PES 型 VGS などのレクリエーション利用者による支払いの取り組みについて先行する欧州の知見を得るとともに、我が国においてこのような取り組みを試行する社会実験を行うことが有意義と考えられる。

## 2. 研究の目的

PES 型 VGS などレクリエーション利用者による支払いの取り組みにおいて先行する欧州の知見を得るとともに、我が国において同様な仕組みの有効性を確認するためにスキームを構築して社会実験を行う

## 3. 研究の方法

イギリスなどにおいて PES 型 VGS などレクリエーション利用者による支払いの取り組みが行われている事例について現地調査などに基づいて知見を収集する。また、我が国においては、新潟県湯沢町において PES 型 VGS の仕組みを構築し、その有効性を確認するための社会実験を行う。

## 4. 研究成果

本研究では、受益者負担による持続可能なレクリエーション・ツーリズムの推進の観点から、レクリエーション利用者等からの支払いを得る手段としての「生態系サービスへの支払い (Payment for Ecosystem Services, PES)」型の「訪問者贈与スキーム (Visitor Giving Scheme)」(以下、PES 型 VGS と称する) などのレクリエーション利用者による支払いについての実証的な検討を行った。具体的には、イギリスのコッツウォルズ保全委員会 (Cotswolds Conservation Board, CCB) による PES 型 VGS の取り組みやイタリア・ボルゴバルディターロにおけるキノコ採取チケットシステムなどについての知見を得た。また、新潟県湯沢町において日本で初めてとなる PES 型 VGS のスキームの構築を行うとともに、社会実験の取り組みを行った。

イギリスにおける PES 型 VGS については、コッツウォルズ保全委員会 (Cotswolds Conservation Board, CCB) による PES 型 VGS の取り組みについて、聞き取りと現地調査結果の取りまとめを行った。CCB は 2013 年から、シードマニーによって 3 つの小さなプロジェクトを開始し、現在では 23 の VGS プロジェクトを実施しており、プロジェクトの計画からスキーム全体の仕組みづくり、地元のビジネスや地域コミュニティなどのステークホルダーの参画の促進などの一切の支援を行っている。2018~2019 年まで、「コッツウォルズを大事にしよう (Caring for Cotswolds)」というキャッチコピーのもと、河川や自然保護地域の保全、希少種であるメンフクロウの生息地の保全、トレイルの改善などの 12 の VGS プロジェクトが実施された。この結果、22,000 ポンドの寄付実績を得るなど一定の成果を得ている。

イタリア・ボルゴバルディターロはポルチーニキノコ (Boletus) の有名な多産地であり、この地域産のものは、欧州委員会の地理的表示保護 (PGI<sup>(2)</sup>) を野生産品で唯一獲得してブランディングに成功しており、また、キノコ狩りチケットの収入を森林整備に還流する画期的な仕組みを構築している。1994 年から現行のチケット制度がイタリアで初めて導入され、近年はチケット収入のみで年間数億円を越える年もあり、キノコ採取チケットと野生キノコ製品の販売額が木材販売額を上回っている。現地において制度の創設者などから聞

き取りを行い、現状と課題を把握することができた。また、現地において、キノコ採取者を対象としたアンケート調査を行った結果、訪問者の年齢層、居住地、訪問回数、収穫物の用途、満足度などについての一定の傾向を把握することができた。

さらに、新潟県湯沢町において PES 型 VGS スキームの構築と社会実験を行った。具体的には、湯沢町および各観光協会とともに 2019 年から湯沢町自然環境保全基金を立ち上げ、3 地区において草刈りや歩道整備などの活動のための寄付金を募る取り組みを試行した。本研究の期間とコロナ禍が始まった時期と重なり、取り組み期間に観光客がほとんどいない状況が続いたため、残念ながら通常の状態での社会実験を実施、評価することはできなかった。地元企業の参画を図るために計画したアンバサダーの募集も本研究期間終了後の 2022 年以降に持ち越しとなった。このため、3 年間の寄付金総額は 3 地区あわせて 300,734 円にとどまった。しかしながら、湯沢町自然環境保全基金は本研究終了後も継続されることから、今後観光客が次第に通常に戻る状況において、地域の関係者を巻き込むこの仕組みの有効性と発展について引き続き注視していきたいと考えている。



写真 コッツウォルズ保全委員会 (CCB) の最初のシードマネーによって整備されたカイトヒル自然保全地区 (Kite Hill Nature Reserve)。中央は保全されている湿地 (2020 年 1 月撮影)

### 3. Borgo Val Di Taro

- Problem: Existence of superb Boletus mushroom producing community forest (13,000 ha)

- Action taken:

1) Picking ticket: Picking payment initiated in 1964, and the current picking ticket system started in 1993.

2) EC Protected of Geographical Indication (PGI) Label obtained.

3) Tax reform: initiated in 2018 to raise market transparency

-Outcomes:

1) Revenues: fresh mushroom (final value): 0.6-1.2 M E/y, Ticket: 0.4-1.3 M E/year (higher than timber revenues)

2) Local reinvestment: The incomes are fully utilized for treatments to improve the forests for mushroom production (area expansion planned).

- Challenges

• Policing: 50% people do not pay[Viale & Mortali. 2019].



スライド 2020年森林学会報告資料から (ボルゴバルディターロ)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 柴田晋吾
2. 発表標題 生態系サービス林業/森林サービス産業とイタリアにおける先駆的取り組み
3. 学会等名 日本森林学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 柴田晋吾	4. 発行年 2022年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 250
3. 書名 世界の森からSDGsへ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------